

## 今こそ創る 未来の農業観！

静岡県立下田高等学校南伊豆分校 園芸科 3年 和泉 莉梨樺

「うあー、あの爽やかさ何ですかね。」おでんの食材を収穫していた私たちを見て、ナンズビレッジ代表の梅田さんが叫び声を上げました。畑に居合わせた先生はきよんとしています。野菜の収穫作業を初めて見た！という、梅田さんは、スマートフォンを片手に夢中で写真を撮っています。そして、おもむろに、「農業って恰好いいつすね！」とつぶやいたのです。

そう、私は、農業高校で学ぶ、農業女子として、農業が持つ従来のイメージを変革し、農業を新鮮で未来へと希望が指し示す、憧れの職業に変えたいと思います。そう、恰好いい、やってみたい、おもしろそう、そんな仕事にしていきたいのです。

高校2年次、私は、インターンシップで、下田市にあるナンズビレッジの梅田さんと出会いました。その元気、おすそわけしない、その一言をきっかけに、食を通じて地域を発信、活性化する活動、「高校生カフェ」を同級生3人と立ち上げました。

その活動を通し、私は、今の若い世代は、新しい視点や価値観で農業を捉え直すことができることを確信したのです。

第1回、高校生カフェは、南伊豆町、下賀茂商店街の空き店舗を利用し、お店（おでん）を販売しました。地域のおじいちゃん、おばあちゃんの温かい笑顔が溢れ、普段は、寂しい空き店舗が住民の交流の場、幸せの場になりました。

私が一番嬉しかったことは、私たち高校生のアイデアが受け入れられ、注目されたことです。商店の店（てん）に濁点をつけた文字、お店（おでん）や「どんな味がするのかな」単純な興味で生まれたブロッコリーのおでんが話題となったのです。私たちの遊び心は、世代を超えて受容され、人々の好奇心を刺激したのです。

そして、私は思いました。「このプロセスは、農業Ⅱ地味Ⅱお年寄りに代表される従来の農業観を壊し、まったく違った新しい時代の農業観を作る力になるのではないか」

既存の概念を打ち破るような若い人が生み出す斬新な発想、女子が持つ温かな感性や柔軟性を農業経営に取り入れたら、もつともつと農業はおもしろ

く、開かれた、明るいものになる、そう気付いたのです。

高校生カフェ、第2回、カレー企画は、斬新さを前面に出しました。キーマカレーの名称は、「今、本気の意味で使われている、若者言葉、まんじ(卍)を使い、まじ卍カレー」。チーズやハウレンソウ、フランスパンなどのトッピングを充実させました。不思議なネーミングは、人々の心をつかみ、キーマカレーは完売。そして、素材のイメージを変えたいと挑んだゴボウチップスのトッピングは大好評でした。私たち自身、ゴボウを見直すきっかけとなりました。

まじ卍カレーの販売から3か月、高校3年生になった私たちに嬉しい知らせが届きました。高校生カフェの活動を知った下田市観光協会から、6月のアジサイ祭りに共同で出店したいと依頼があったのです。目玉商品は、下田産甘夏の生絞りジュース。下田界隈で伝統的に栽培されてきた柑橘を素材とし、地域農業を発信したいと考えました。今回は、デニムをリメイクした、オリジナルエプロンも制作しました。

屋台を装飾したお洒落なカフェは、アジサイが群生する下田公園山頂付近に設置、色鮮やかな一面のあじさいと下田湾を見ながら100%手絞りの甘夏ジュースを楽しんでいただくことができました。ほろ苦さと酸っぱさの中に優しい甘みのある甘夏は、梅雨時の不快感を吹き飛ばしてくれました。

現在、私は、これまでの経験から、観光・農業・デザインを組み合わせ、新たな経営モデルを提案していきたいと考えるようになりました。

クラスメイトは、課題研究で耕作放棄地での有機綿花栽培に取り組んでいます。収穫したコットンから女性農業者の味方、肌を守る腕あてを作れないだろうか。陸王ならぬ、キュートな足袋はどうでしょう。高校生カフェの仲間2人は、温暖な南伊豆でコーヒーのオーナー制度を実現し、都会から人とお金を呼ぼうと本気で研究中。猟銃を構え、一点を見つめる女性ハンター、ポスター制作で害獣対策やジビエ振興に貢献できないだろうか。どんどん夢が膨らんでいきます。

今、私は、確信します。従来の農業や経営、そしてそこにある固定観念は、変えていける！無限の可能性が見える憧れの職業、それが次代の農業だ！

来春、私は地元JA職員として、大好きなここ下田で就職します。まずは今あるものを若者の価値観で捉え直し、その可能性に光を当てていきたい。そして、新しい農業観を創り、発信する、それが私の目標です。